

秋田関連の話題から

みちのく秋田に実在した、あの詩の物語

セミドキュメンタリー映画

みちのく秋田
赤い靴の女の子



♪赤い靴履いてた女の子異人さんにつれられて行っちゃった・・・♪

日本人なら誰もが知ってる 童謡「赤い靴」は、詩人 野口 雨情が北海道で新聞記者をしていた頃に知り得た話をもとに、作詩したものと聞きます。日本が貧しかった時代、愛する我が子をやむを得ず手放さなくてはならなかった。引き取ってくれた相手は遠い異国からの訪問者・・・。ひょっとしたら、当時の日本には人知れず数多くあったことなのかもしれません。

そんな「赤い靴」の詩のような実話が秋田にあったことをご存知でしょうか？

明治という時代、獄中生まれという数奇な生い立ちゆえに生みの母と暮らすことが許されず、養母となったアメリカ人宣教師 ミス・カラ・ハリソンと共に異国の地アメリカへと渡った、日本名「金子 ハツ」、アメリカ名「コラ・ユリア・ハリソン」、そして彼女と関わりのあった人々が織りなす、悲しく切なくも心温まる実話です。



ハツとミス・ハリソン

金子ハツ関連の記録／概要

- 1887年(明治20年) 斧を持って暴れる姑から斧を取り払おうともみ合ったふじ(ハツの生母)は、止めに入った先妻の娘「はつ」の喉を誤って払い死なせてしまうその時ふじは身籠っていた
ふじは無期懲役となり、夫人刑務所に収監
そこへ足繁く訪ねていた宣教師ミス・カラ・ハリソンと対面する
11月14日、鉄格子の中でふじは女の子を出産・・・<金子ハツ誕生>
死なせてしまった継娘の生まれ変わりとしてハツと名付けた
同12月、監倉では育てられないハツをミス・ハリソンが引き取る
ハツ6歳、小学校入学の年齢となった
ミス・ハリソンの願いを聞き入れた教え子の川井運吉が戸籍上の父となりハツは無事小学校へ入学
- 1897年(明治30年) 獄中にてハツの母 ふじ 死去、享年42歳(10年8ヶ月の服役)
- 1899年(明治32年) ハツ12歳、帰国することになったミス・ハリソンはハツを連れてアメリカに帰ることを決断
アメリカに渡ったハツはコラ・ユリア・ハリソンの名を与えられる
しばらくミス・ハリソンの母の元(ロスアンゼルス)で育てられる
コラ(ハツ)はロスアンゼルスで大学まで通わせてもらった
- 1907年(明治40年)頃 排日運動の広がりから、二人は日系人移民の多いハワイへ渡る
- 1914年(大正3年) ホノルルでミス・ハリソンと共に師範の試験を受ける
後、共に教師の道歩み、熱心に日系移民たちの教育に励む
- 1922年(大正11年) 重い病を患いながら我儘も言わず教壇に立っていたコラ(ハツ)
4月30日・・・<コラ・ユリア・ハリソン(金子ハツ)死去／享年34歳>

この実話が知られることとなったのは秋田県鷹巣町出身の直木賞作家、渡辺 喜恵子氏が著書「タンタラスの虹」に挿入話として取り上げたことからでした。後、秋田県婦人団体の努力により同話をもとにした「秋田の赤い靴」像が秋田市立中央図書館・明徳館(千秋公園下/旧明徳小学校跡)の前庭に立てられました。また、女優の浅利 香津代氏が一人芝居「足の裏の神様」で演じられたことなどでも知られています。



秋田の赤い靴像

渡辺 喜恵子氏作
タンタラスの虹



映画は本年5月18日、江戸から大正時代の古民家が移築・復元されている横手市の民家苑「木戸五郎兵衛村」と同市周辺をロケ地にクランクイン。これを書いている段階ではまだ仮決定のため明かすことは出来ませんが、秋田出身の有名俳優さんたちの出演が予定されています。脚本・監督は 石谷 洋子さん(横手城南高卒)。今後は秋田市の旧金子家など、秋田県各地でのロケを主体に撮影されていく予定です。

さて、当映画についてのアバウトな紹介をさせていただいてところで、私と同映画の関係について少々・・・。

昨年6月、当映画の企画者でテレビ番組等の映像企画制作会社代表である 大山 雅義さん(秋田中央高卒)から手伝ってこないかと声をかけられ、同映画の広報を主とするプロモーションの企画・制作を手伝うこととなりました。

来春公開予定に向け、今後皆様へは種々ご協力を仰ぐことがあろうかと思えます。その節はよろしくお願いたします。

◆ 記事

松木 一美 (昭和48年機械科卒)

みちのく秋田に実在した、あの詩の物語を映画化！

セミドキュメンタリー映画

みちのく秋田
赤い靴の女の子

脚本・監督
石谷 洋子

2020年春
公開予定

当映画制作資金のご支援・ご協賛をお願いします。

映画に関するお問い合わせ及びご連絡は下記へ

みちのく秋田・赤い靴の女の子 制作委員会 事務局 / 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-13-8-604 (株)ヌーベル内

<https://akita-akaikutsu.net>

担当/ 大山 雅義 (制作委員会委員長) TEL: 090-6549-3022 E-mail: nouvelle@ever.ocn.ne.jp
松木 一美 (総合サポート委員) TEL: 090-3049-7291 E-mail: kf-works@sea.plala.or.jp